

世界遺産登録への道

道

Vol.6

「世界の人々をおもてなしする」
—イコモス現地調査を終えて—

日本がユネスコに世界文化遺産登録の推薦書を提出している「平泉—浄土思想を基調とする文化的景観—」について、その登録審査作業の大きな山場である、イコモス（国際記念物遺跡会議）による現地調査が、8月26日から30日の5日間にわたって行われました。

今回はこの現地調査の状況について、市の取り組みなども交えながらお知らせします。

イコモス現地調査の様子

市内の関連遺跡では、長者ヶ原廃寺跡（衣川区）が27日、白鳥館遺跡（前沢区）が28日にそれぞれ調査員が実際に遺跡を訪れ、担当職員が遺跡の概要と「平泉」の中での遺跡の位置付けについての説明を行いました。さらに市は、文化庁と県の指導の下、平泉町・一関市と連携を取りながら、「平泉」を構成する資産の理解を助けるための補足説明資料を作成し、またどのような体制で資産を保存・管理していくのかを示しました。



イコモス調査員（中央）に遺跡の説明をする市職員

白鳥館遺跡の現地調査では、平泉町の水辺プラザから同遺跡まで北上川を実際にゴムボートで遡上しました。調査員は平泉における水上交通の重要性と、それに占める遺跡の役割を確認できたようです。

長者ヶ原廃寺跡の調査では、平泉を形成した奥州藤原氏の母体である安倍氏の寺院の重要性や、遺跡廃絶後も奥州藤原氏の祖先崇拝の対象だったことを確認したこと、「平泉」に占める同遺跡の役割の大きさを認識したようです。

地域住民の心がこもった「普段着」のもてなし

このほか調査員は期間中、衣川区の農家レストラン「んめえがすと」で地元3市町が中心になって開催した交流会にも参加しました。交流会では、遺跡周辺の住民の皆さんが家庭料理な



イコモス調査員（左）と談話する相原市長

どを準備したり、余興として民謡を披露したりするなど、心のこもったもてなしをしていただきました。調査員は料理に舌鼓を打ちながら、地域住民との交流を終始にこやかな表情で楽しんでいました。

今回、調査員が「平泉」について好印象を抱いて帰途についたのは間違いありません。これもひとえに、市民の皆さんが現地調査前に遺跡周辺の環境整備にご尽力いただいたこと、また交流会で心のこもったおもてなしをしていただいたからこそです。

まだまだ予断は許しませんが、来年7月の世界遺産委員会での「平泉」が晴れて世界遺産に登録されれば、白鳥館遺跡や長者ヶ原廃寺跡、さらには市内に点在する平泉と関連する史跡には、世界各地から見学者が訪れるようになるのは間違いありません。

その際には、今回の現地調査で、イコモスの調査員を迎えたように、心を込めた「普段着」のおもてなしをお願いします。市は、地域住民の皆さんと協力しながら対応していきたいと考えています。

（文・世界遺産登録推進室）



白鳥館遺跡周辺のごみ清掃をしていただいた大曲水辺の会（前沢区）の皆さん



川東行政区（衣川区）による環境美化活動の様子（長者ヶ原廃寺跡）

■問い合わせ
世界遺産登録推進室（前沢総合支所内線313）

消費生活Q&A相談

このコーナーでは、普段の生活で実際に相談があった事例から、その対処方法などを紹介します。
消費生活相談は水沢・江刺総合支所市民相談室に常設。詳しくは広報おうしゅうお知らせ版の「相談窓口」参照

Q 先日、1人暮らしの父親（70代）を久しぶりに訪ねました。父の様子は普段と変わらないうちに増えていたが、家の中には封が切られていない手紙や請求書が散乱していました。押し入れには真新しい布団が数組重ねられ、台所には浄水器も取り付けられていました。

その中でも驚いたのは、盛岡の裁判所からの呼出状でした。父がクレジットで購入した10組の布団代金（120万円）を支払わないため、クレジット会社から裁判に訴えられているという内容でした。父にそのことを聞きたですと「10組の布団の打ち直しをしたので、20万円の借金は覚えているが、120万円は知らない」とひとことのような返事でした。

裁判の出頭日は10日後になっていますが、どうしたらよいでしょうか。

A 裁判所の存在が身近なものになっていきます。高齢者でも簡単にクレジットが利用できるようになり、内容もよく分からずに高額な買い物をさせられ、支払えなくなる事例が増えています。クレジット会社が裁判に訴えると、裁判所から当事者に呼出状が送達されます。この呼出状に答弁書も提出せず、期日も出頭しなければ、相手の請求どおりに判決が出て、給料や財産が差し押さえられることにもなります。

今回の事例では事実と違う内容のため、答弁書に、消費者相談を受けるので、出頭期日を延ばしてほしい旨を書いて提出しました。その結果、出頭日が1カ月繰り延べになりました。その間に、事情を確認しながら、販売店やクレジット会社と交渉することになりました。（水沢総合支所市民課相談係）

おえ気ですか
市長です！
奥州市長
相原正明



「調布市民プラザあくろす」には、東京都調布市の市民と職員が75人ほど出席し、6人の市区長の話を熱心に聴いています。

8月26日、第10回未来の都市を創る市長の会が調布市で

が、この日は欠席となりました。

今回のテーマである行政改革に関して、調布市長は、行政評価システムとその成果を基にした市民参加による基本計画づくり、また横手市長は、行政経営品質向上のためのサービスの質を高める仕組みや組織のあり方について述べました。

目黒区長からは、汚職事件に端を発した職員倫理条例と公益通報者保護条例、岐阜市長からは市

営バスなどの民営化、鳥取市長からは、ISO9001:14001のダブル取得などの発表があり、私は市場化テストの試みについて述べました。

質疑も含め、大変盛り上がりしました。

開催され、同市長、鳥取市長、岐阜市長、目黒区長（東京都）、横手市長（秋田県）、そして座長を務める私が出席しました。このほかのメンバーとしては、市原市長（千葉県）と平塚市長（神奈川県）がいます

お元氣レシピ

地産地消応援メニュー ⑮

豆サラダ



材料（10人分）

キャベツ……………中¼個
キュウリ……………2本
パプリカ（赤・黄）……………各½個
ピーマン……………1個
ニンジン……………¼本
大豆……………50g
チーズ……………80g
フレンチドレッシング……………適量

作り方

- ①一晩水につけておいた大豆をゆでてから冷やす
- ②キャベツ、キュウリ、ニンジン、パプリカ、ピーマンは薄切りにする。ニンジン、パプリカ、ピーマンはさっとゆでてから冷やす
- ③チーズをさいの目に切る
- ④材料を全部合わせ、フレンチドレッシングで味付けをする

わたしたちが作りました



胆沢地区学校給食校協議会

学校給食の質を向上させるため、調理実習を行っています。今回は子どもたちが苦手な豆料理を作りました。味だけではなく見た目も考慮し、苦手な子どもでも食べられるように工夫しています。